

後記

1 森征一教授の御退職記念号が、この度、無事刊行となりました。法学研究編集委員会では、永年の慣行として御完職になられる先生方への、法学研究会からのささやかな感謝の一端として、御退職記念号を企画してまいりました。今回も、その一環として、森征一教授・御退職記念号が刊行のはこびとなったものです。

2 本記念号の刊行をもちまして、法学研究会として、永年にわたる森征一教授の法学部における研究・教育・行政への多大な御貢献と御尽力に、心からの深い感謝の意を表した次第です。先生の御清栄にのますますの御発展と御活躍を深甚よりお祈り申し上げます。

3 森教授は、その御略歴や御業績目録からも明らかなように、研究者や教育者としてのみならず、法学部長・大学院法学研究科委員長・就職部長・学生部長・常任理事という激務の御要職においてもまた、永年にわたり法学部の研究・教育に多大の御貢献をなされてこられました。若き日の秀作、「中世イタリヤの都市コミュニネと条例制定権理論」は、計四回にも及ぶ連載の、大部の力作であり、若くして既に森教授の西洋法制史研究者としての名を高らしめ卓抜した多くの可能性を顕著に示したものですし、また、法学部長・大学院法学研究科委員長・常任理事等としての御手腕は、あらためて指摘するまでもありません。常人には困難を極める二つの柱を、見事に両立されました。

4 森教授との出会いは、昭和四〇年代半ば頃、大学院共同研究室（研究棟B1F）の時代でしたから、後輩の一

人として、私も四〇年近くも御交誼を戴いてまいりました。皮製の学生カバンを手に、背筋をしっかり伸ばし、姿勢正しく、スピーディに颯爽と歩かれていた当時院生の先生は、共同研究室で朝から夜まで努力される大変な勉強家であり、日曜日も例外ではなく、法学部助手時代も同様でした。後輩院生達が自ずと範とした、先生の「日曜日の大学院修行時代」でした。当時より、先生の周りには、いつも同輩や後輩達の多くの人の輪が、ごく自然に形成され、それは、弱者への暖かい眼差しやいたわり、そして先生の御人望のなせる業である、と拝察されました。

5 大学紛争の時代、学生占拠に備え、明日から大学当局によるロックアウトがある、という緊急事態の夜遅く、誰もいない研究棟で、先生や私は、研究作業を急いで切りあげ、書籍や資料を両手一杯に帰宅しましたが、爾来三〇数年、先生の御研究への真摯な学問的姿勢は、御激務の渦中の今も、当時とまったく変わりがないように、お見受けされます。御研究のさらなる御発展を心より祈念申し上げます。

6 最後になりましたが、記念号の刊行につきましては、慶應義塾大学出版会編集部や法学研究会事務局の方々からは、いつもながら様々な御尽力を戴きました。記して、その御労苦に心より感謝申し上げます。

平成二十一年一月

編集担当委員

法学部教授 斎藤和夫